

# 花高同窓会会報



## 第115号

発行 平成30年2月28日

秋田県立花輪高等学校  
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12

TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137

URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudosu/>

印刷 (株)大館印刷



前列左から二人目・阿部牧郎氏、(高4期) 後列右から二人目・本人

### 支部便り

## スマホ時代の同窓会！

関西支部長

京都学園大学名誉教授

坂本 信雄 (高14期)

様々なサークルに限らず、県人会や同窓会などの親睦的な集まりは、この人口減少時代、新人会員の獲得に何処でも頭を痛めているようだ。もともと卒業生が少ない関西では、呼びかけても反応が無いなどもある。とりわけ事務局側は四苦八苦になりがちだ。しかし、若い人たちはけっして人づき

あいが下手だというわけでもない。なぜならスマホやフェイスブックなどで通じる「つながり」は若い人ほど得意としている。昨年、八幡平中学校を訪れた際、タブレットなどの電子機器による授業設備が完備していることに驚いたが、もはやハガキや会報を通じる伝え方よりもネットに写真掲

載付きの情報が、時代の変化に即応しているようにも思われる。ネット経由になれば同窓会に限らず、ふるさと関連の様々なサイトにもつながること、一気にも多くの会員を惹きつけられるかもしれない。

ただ、こうした取組に高齢者が対応するのに時間がかかるかもしれない。昨年六月の総務省の調査では、六十歳から六十九歳までのインターネット利用者は七十六%、また民間調査によるスマホ保有者は四十八%であった。しだいにこの割合が高まることを想定すれば、同窓会もこれを念頭に取り

組むことが考えられる。母校の再編が伝えられている今日、いわゆる旧卒業生と新卒業生の結び付けも気になる。おそらくその融合の決め手はネット時代への取組になるのではないかと想像される。

結びに、昨年六月に開催した同窓会関西支部の昼食会を報告します(写真)。久しぶりに大先輩の阿部牧郎氏(直木賞作家)も出席されました。出席者は九名と相変わらず少なく、会員の高齢化とともに将来を案じております。

(八幡平出身)

### 出合いに感謝

菅原 開 (高49期)

私が花輪高校を卒業して早いもので、二十一年もの年月が経った。思い出してみると、何かに希望をもって入学したわけではなかったような気がしている。そんななか一人の恩師との出合いが私の高校生活を大きく変えてくれた。担任であり、部活動(野球部)の監督であった彼の考え、野球に対する情熱、その他多くのことに影響をうけながら高校生活を送ることになるのだが、中心はやはり部活動でした。勉強をまじめにしたという生徒ではなかったが、あまり強くない部活動のなかで仲間と一緒に目標を達成するために、苦しくても頑張ったあの時間が非常に貴

重であったと、最近よく思うようになった。恩師との出合い、一生付き合える仲間との出合い、まさに花輪高校の三年間で自分の土台がつくられたと強く実感している。

### 自分を更新し続ける

成田 利奈 (高67期)

私は現在国際教養大学三年次で、メキシコやグアテマラでスペイン語を勉強しながら世界の国々を旅したり、プログラミングを新たに勉強し始めたりと、自分がやりたいことに全力を注ぎ、充実した学生生活を送っています。

そんな私の高校生活は駅伝一色で、全国大会を目標に、部活に打ち込んだ三年間でした。一見、私の高校生活と大学生活は一貫して見えないように見えるかもしれませんが。しかし、目指すものは変わっても、高校で学んだことは軸として自分の中に在り続けています。そして高校時代も現在も一つだけ変わらないことは、自分がやりたいと思ったことに全力を尽くすということです。

新しいことを始めたり、目標を追い続けることには苦勞も伴いますが、これからも自分を更新し続けたいと思います。そして支えてくれる人たちに感謝し、いつか恩返しをしたいです。



# 「企業経営・人生観」 仕事とは人の絆



小田嶋 伸 一 (高47期)

四十七期生の小田嶋伸一と申します。私たちの年から家政科がなくなった学年です。先ずもつて四十二の厄年を終えたばかりの私に壮大なテーマでの原稿依頼ありがとうございます。

私は今現在「小伸製作所」という個人企業を営ませていただいております。バックブザー等の弱電子部品の組立を行っております。十一年前まで私の父が経営しておりましたが、突然亡くなり何もわからないまま継承させていただきました。当時は別会社でモータ関係の開発業務をしていた為、小伸製作所の仕事内容は、全くの新規で何をするにも初めての経験でした。父が正月休み中に亡くなった為、年明けから取引先の皆様や関係者様への挨拶回りから始まり、仕事の流れ、経理の流れ、その一瞬一瞬が必死だった事を覚えております。人はいつどのようになるかわからないで生きているという事を突き付けられた二〇〇七年。今の今まで周りの皆様から本当に

支えられ十一年目を迎えられるおられます。

結びになりますが、私の人生観と致しましては、苦労した分だけしか成長できないと思っております。特に体力回復の早い若い時の苦労は買ってでも苦労して、若いのが故に諸先輩方も多いのでいろいろ学び、チャレンジ精神を磨き、あの時あれだけ頑張ったんだからと過去の自分を糧にできるから、今を頑張れるような気がします。仕事は人と人です。これからも人の為に活動していきたいと思っております。



小伸製作所内

新校舎に入学し、創立八十周年記念式典に吹奏楽部としても参加した高校生活。今回の原稿依頼を受け、仲間と共に部活動や勉学に励んだ当時を思い起しながら、改めてこれまでを振り返ってみました。保育士になりたいという夢を抱き、短大へ進学。卒業後は地元で就職し、社会人になってから早九九年が経とうとしています。当時から地元で就職することを希望していたので、こうして今、地元の子ども

## 感謝

阿部 麻衣子 (高59期)

たちの成長に携われていることを嬉しく思いながら、毎日可愛い笑顔に囲まれた生活を送っています。人とかかわりが多い

また、大人になった今も、子どもたちと一緒に新しい経験やたくさん感動を味わうことができてくる毎日がかげがえのないものだと思えるようになりました。私の進もうとする道を応援してくれた家族や諸先生方、友人等みんなに感謝しています。

## 鹿角暮らしを楽しむために

阿部 朗 人 (高58期)

四年前にUターンした私は、楽しいことばかりだった戻ってくる前の生活と、いまいちバツとしないう鹿角での暮らしとのギャップに、とにかく悩んでいました。しかし、あるとき、自分は鹿角のことを知らないままに、また、知ろうともせず、地元に対して後ろ向きな気持ちになってしまったことに気づかされる出来事がありました。そして「自分で何かやってみよう」と思い、「かづの若者会議」という団体を立ち上げました。それからは、知ったつもりでいた地元を若者目線で見つめなおし、鹿角暮らしの楽しみを増やせるよう

な活動をしてきました。ある日の集まりの中で、地域に愛着をもつという事は、その地域の人を好きになることだと思ふ。もつと地域と接して、地域の人を好きになりたい。という意見がありました。私は、かづの若者会議の活動をはじめたことで、たくさん魅力的な人に出会うことができました。鹿角がとても好きになりました。



かづの若者会議風景

に興味をもち、自分なりに考え、行動できる若者が増えれば、鹿角はさらに楽しいまちになると思っております。



# 「まちなかオフィスにおります！」 地元就職・Uターンを考える方



常任幹事 竹田 孝雄（高20期）

二十期卒業の竹田孝雄と申します。とりわけ皆様にお聞かせできる程の経歴や実績があるわけではないので、簡単な自己紹介と最近の活動について書いてみました。私は小坂中学校から花輪高校卒業後、一浪して秋田大学の鉱山学部を卒業しました。就職は㈱コパルといまして、精密機器業界、具体的にはカメラのシャッターを作る会社に入社し、定年まで勤めました。会社では金属材料の検査の仕事が最初で、熱処理開発などをしていました。突然、省力機械の部門を担当させられました。機械設計は未経験でしたので、部下にすべてお任せでした。ただ、その時感じたのは、技術者は結構保守的な人間が多いと感じました。設計に責任があるので当然かも。だから、少しでも斬新な設計をしてもらうためには、多少無理な要求をすることも必要と思いました。最近、働き方改革などの言葉があります。やはり壁を乗り越えるにはどこかで無理を承知で取り組むことも必要ではないかと思いま

す。定年後、インドネシアで二程勤務し、その後、花輪に帰りました。帰郷後、よく耳にするのは鹿角には働き場所が少ない、よいところが無いという声でした。そこで同級生の小田さんを通じて、地元企業を数社訪問してみました。びっくりです。鹿角市、小坂町には、高い技術力をもった企業が結構ありました。新製品開発に頑張っている会社もあります。鹿角地域の製造業の団体として鹿角工業振興会があります。三十社ほど加盟していますが、経営者には花輪高校の卒業生も大勢おります。皆さん鹿角のことを考えて頑張っています。今、私は鹿角市の依頼を受けて地域連携推進事業に係わっています。在校生の皆さんや同窓生にも是非地元企業を知っていただきたいと思っています。花輪の新町にあるまちなかオフィスに机を置いています。地元企業について知りたいと思う方や、Uターンを考えている方がおられたら気軽に相談に来てください。お待ちしております。

## 五十年前のあの頃

副会長 神田 昭治（高20期）

昭和四十三年、三月十一日、社会人としての第一歩を踏み出した、自分にとっては忘れられない思い出の一日です。三月十一日といえば、今では東日本大震災という「日」ですが…。

会社は、秋田県内十二箇所営業所があったのですが、現地採用、現地勤務ということで花輪営業所勤務となり「卒業したらいつでも来るように」と言われ、卒業式から十日も経てばということでの出勤となりました。同級生たちの中には、すでに就職先に発った人もいたのですが、ほとんどの人たちはこの後からでした。なにしろ、五十名のクラスメートのうち鹿角に残ったのは、自分を含めてたったの三人でしたから…。

この日から、仕事の帰りは毎日のように「花輪駅」に向かう日々となりました。駅に行けば、卒業生の誰かが上京する見送りの雰囲気であり、六時頃発のホームには、つねに「蛍の光」が流されていたもので、同じクラスでなくとも、その家族

の人たちから「入場券」が渡されホームに入ったものです。また、今日のように携帯電話はなく、見送りの予定などは、駅にある「伝言板」を利用して連絡したものです。見送ったあとは喫茶店に入り、仲間を想う毎日でしたが、その喫茶店もいまでは無くなりました。最終的に、進学する連中が往く頃には自分独りになっていました。



第20期C組クラス会 昨年5月 鹿角パークホテル

それから後に、進学組たちを中心に、お盆、正月と帰省するたびにクラス会を開き近況を語り合い、また、関東方面や鹿角でも何回となく集まり、その絆を大切にしています。

我々、団塊世代の「トリ」ともいえる、一番多くの仲間がいる同年組は、高校入学では一クラス増えたG組までで少しは救われたけれど、大学進学では一浪は普通であり、就職等でもそれなりの訓練を味わった世代です。

三人しか残らなかったが、その後地元に戻ってきて、今では、鹿角界隈に十五名が暮らしています。先に恩師が逝かれ、その後四人が亡くなりましたが、今年「古希」を迎えます。花輪高校での二・三年生の二年間の生活から今まで、よく続いているものだと嬉しい思いをしております。

自分だけの目標  
杉江 祐太（高57期）

人生において目標をもつことは大切です。目標という言葉はあらゆる場面で使われますが、「自分

で見つけた目標」と「他者から設定された目標」とでは別物であり、到達するまでの頑張りの度合いや達成感が異なるのではないのでしょうか。

私は東京の大学に進学し、学習塾でアルバイトをした際に明確な目標を見つめました。嬉しさや悔しさ、色々な思いをしましたが、目標に向かうまでの過程から得た経験は自分の武器になり、自信へとつながりました。

実際、目標を自分で見つけるまでが一番大変なことですが、固定観念にとらわれず広い視野で行動し、何事にも果敢にチャレンジすることがきっかけで出会えるかもしれせん。

今私は、保育園で働きながら英語教室を運営しており、子どもたちは細かい質問を聞き分けながら返答ができるレベルになりました。言い訳を見つけ、自身の境界線を決めてしまおうと自分が見ている世界は変わります。目標までの道のりはまだ先ですが、向上心を絶やさぬよう、これからも成長していきたいです。



花輪六日町にある「わんぱくはうす」



### インターハイ 出場生徒を激励

一月十七日、第六十七回全国高等学校スキー大会に出場する、生徒十六名と指導者四名を激励するために、井上高廣会長、神田昭治、山田徹弘副会長の三人が同校を訪れた。

同窓会としては以前から、インターハイ出場者には激励金を贈り、全国大会での健闘と活躍に期待をよせております。

井上会長は「今回の男女とも全県優勝したことの自信と、各自が厳しい練習に耐えて頑張ってきたことの結果を、十分に発揮してほしい」と激励した。

山本竜同部主将が「男女ともに総合優勝を目指し、いい結果を報告



全国大会での活躍を期待し、選手代表と握手を交わす役員(右)

告げられるよう頑張る」と決意を誓った。  
大会は二月に、岐阜県と北海道で開催される。

### 感動を ありがとう!

女子総合で優勝  
男子総合は第三位  
複合で木村幸大君優勝

出場した選手たちの大活躍で、来年の花輪スキー場で開催される大会に大きな弾みがついたといえます。

#### 学校対抗

女子 優勝(七年ぶり四度目)  
男子 第三位

#### 男子 複合

第一位 木村 幸大(二年)  
第八位 小館 冬歩(二年)

#### 純飛躍

第八位 小館 冬歩(二年)

#### 10キロクラシカル

第七位 進藤 洸太(二年)

#### 10キロフリー

第七位 山本 竜(三年)

#### リレー 第四位

女子 5キロクラシカル

第二位 田中 星那(二年)

第六位 本田 千佳(二年)

#### 5キロフリー

第三位 本田 千佳(二年)

リレー 第三位



副会長 児玉 政明(第42期)提供

### 平成30年度 総会開催のご案内

- ・日 時：平成30年5月12日(土) 午後5時
- ・場 所：鹿角市花輪 鹿角パークホテル
- ・会 費：4,000円
- ・申込先：☎0186・23・2126

担当：花輪高校 木村先生まで

### 第70期クラス幹事

平成二十九年度卒業生の中から同窓会の各クラス幹事が決まりました。今後ともよろしくお願いたします。

- |    |          |      |     |
|----|----------|------|-----|
| A組 | 安 保 翔 太  | ○澁 谷 | 萌   |
| B組 | 井 上 慶 人  | 美濃山  | 温 菜 |
| C組 | ○阿 部 堅 太 | 田 島  | 菜々穂 |
| D組 | 折 戸 翔    | 佐 伯  | ちひろ |

○印は学年代表幹事

### ～卒業生の皆さんへ～

私が卒業してからちょうど四十年になります。一九七八年三月の卒業で、長いようですが、日々行事等があり、年々過ごしていったら四十年経ったという感じです。

卒業生のみなさんは、それぞれの道に進み鹿角を離れる人も多いでしょう。私は若い頃東京で知らない人と話しているうちに、田舎は？「秋田です」。秋田の何処？「鹿角です」。高校は？「花輪高校です」と言ったら、「俺もだ」ということになり、びっくりするやら感動したものです。それから、



ご馳走になったりアドバイスももらったりしたものです。

みなさんも先輩を頼ってください。経験者の話を聞くことほど有意義なことはないと思います。

高校統合と言ってもすぐにはできません。仮に十年先だとすると、みなさんには千人を超える後輩ができる訳で、これから経験を積んで、頼られる先輩となるよう期待しています。ご卒業おめでとう。

幹事長 高見 映昭(高30期)